

楽しい音楽史 ～音でたどる作曲家の心の世界～

日時 令和5年8月31日(木) 14時～15時30分

場所 くまもと県民交流館パレア 10階 会議室7

楽しい音楽史

講師紹介

平成音楽大学 教授 木村 博子先生

専門は西洋音楽史(初期バロック)で、1990年代より音楽療法にも携わり、高齢者やこども音楽療法を实践され、近年はコミュニティ音楽療法の実践と研究に従事されています。



木村 博子先生

講義内容

バロック期からの代表的な人物であるバッハ、モーツァルト、ベートーベンの生い立ちから人物像も話され、また、それぞれの曲を電子ピアノやCDを使って、聞かせていただきました。

バッハ

1685年にドイツの中部の町、アイゼナハで生まれました。

9歳の時に母を失い、その後、直ぐに父も亡くしてしまいます。そのため、バッハはオルガニストを務めていた長兄に引き取られます。小さい頃から勉強熱心な努力家で、困難な状況の中、優れた音楽家として大成します。



バッハの性格はとても頑固で短気者で、周囲と軋轢が絶えませんでした。しかし、晩年の大作『マタイ受難曲』にはバッハの深い人間性と篤い信仰心が表現されており、宗教を超えた感動を生んでいます。

モーツァルト

1756年、神聖ローマ帝国ザルツブルクで生まれました。

宮廷音楽家だった父は、小さい時から才能があったモーツァルトを知らしめるために、彼を貴族や王族の前で演奏させ、14歳の時にはローマ教皇から勲章を授与されます。神童としてもはやされても、青年期には就活がうまくいかず、フリーの作曲家として活動することになります。



晩年は経済的にもひっ迫し、苦しい生活になりますが、その中から珠玉のような作品を生み出しました。オペラ『フィガロの結婚』は人間に対する彼の優れた観察眼と優しさに溢れており、時代を超えた人間の真実を伝えるものになっています。

ベートーベン

1770年にドイツの中西部のボンで生まれました。

宮廷のテノール歌手だった父のもと、小さい時から演奏会を開き、類まれな楽才を発揮しました。彼が難聴を乗り越えて大成したことは有名ですが、その音楽も常に前進する不屈の魂を表現して、聴く者に力を与えます。



講義の感想

バッハの生い立ちを詳しく学び、音楽家を身近に感じるようになりました。また、自分の知らない事ばかりで勉強になりました。音楽家という穏やかなイメージ像がありましたが、バッハの性格が短気であるとは意外でした。今までクラシックはほとんど聞かない私でしたが、これを機会に、たまに聞きたいと思います。